

(別紙1)

尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業 教育・研究活動事業実績報告書

教育・研究活動名	運動や遊びを通じて行う子どもの見守り・ささえあい活動			
申請大学・高校等名	大学及び 高校等名	園田学園女子大学		
	活動 グループ名	山崎ゼミ	参加学生 等人数	5 人
指導責任者名 及び連絡先	学部・学科等 名称	人間教育学部 児童教育学科		
	責任者氏名	山崎 雅史	連絡先 電話番号	
	E-mail			
協働する市民活動団 体及び代表者名	団体名	社会福祉法人いきいきのびのび		
	代表者氏名	橋本 貴美男	連絡先 電話番号	
	E-mail			
教育・研究活動 目標	立花地区の幼児や児童と同地区内に立地する本学の学生とが運動や遊びを通じて交流をすることで、子どもの居場所づくりを活性化させるとともに、子どもや子育てに関する課題解決に向けた取組を、いきいきのびのびと協働しながら推進することを目的とする。			
活動内容及び 実績、評価	(活動内容及び実績) ・4/27 主な活動場所となる尼崎市地域総合センター上ノ島(以下、「センター」とする)を訪問し、職員の方と学生との顔合わせや今後の活動等について、打ち合わせを行った。 ・5/18 に学生 2 名、5/23 に学生 3 名がセンターを訪問し、放課後センターを訪問した子ども(両日ともに 10 名程度)と自由遊びを行った。 ・7/27 に第 1 回目の「夏を楽しもう」を、8/7 に第 2 回目の「夏を楽しもう」のイベントをセンターで実施した。小学校が夏休み期間中であつたため、午前中に時間設定を行った。事前にイベントの実施についてチラシを作成し、センターを通して子どもへの周知を図った。夏場であつたため、水風船遊びの時間も設定した。両日ともに約 20 名の子どもが参加した。最後にお土産をプレゼントした。 ・1/16 に「思いっきり楽しもう冬まつり」のイベントをセンターで実施した。時間は、3 学期が始まっていることから、放課後(16:00-17:00)に設定した。あらかじめ、センターと調整をし、12 月中にセンターが発行する「のびのび事業だより」に掲載していただき、周知を図った。また、1/9 には、学生がチラシを作成し、センターを通して子どもへの再周知を図った。寒い冬だからこそ、体を動かして楽しもうという趣旨で実施した。活動内容について、事前に職員の方と打ち合わせを行い、普段よく行っている、バスケットとドッジボール以外の遊びを学生が考えて実施した。当日は、約 20 名の子どもが参加して、長縄遊び、猛獣狩り、しっぽとり、ジェスチャーゲームの4つの運動遊びを楽しんだ。最後にお土産をプレゼントした。 ・2/2 に園田学園女子大学で開催された「尼崎でつながる地域の活動報告会」において、今年度の活動内容について報告を行った。			



・2/9 から2/24にかけて、2/2に使用したポスターをセンターに掲示してもらい、市民の方への活動報告を行った。

(評価)

・申請時のスケジュールを目安に活動を実施した。年度当初の顔合わせや打ち合わせは予定通り実施でき、学生、センター、指導教員(以下、「三者」とする。)でイメージを共有することができた。

・5～7月に予定していた、のびのび事業への参加(1人1回/月)は学生が教育実習に行ったり、授業があったりと、なかなか予定通り進めることが困難であった。イベント実施だけではなく、普段の子どもの活動の中に、学生がボランティアで参加するような形と、両面から活動を推進することが、本事業の展開にとって重要であると考える。

・イベント実施毎に、三者で打ち合わせを行った。活動時間や活動内容について調整をし、実施することで、子どもが楽しく遊ぶ姿や満足している姿が見られた。

・2/2の活動報告会での報告は、当初予定していなかったため、報告は行ったものの、学生が参加することができなかった。活動を広く周知するには適した会であることから、次年度は年間活動計画に位置付ける。

・本事業でセンターと繋がることで、「第48回差別とたたかう上の島文化祭」にもお声かけいただいた。自己紹介の場で、1分程度活動について、参加者に紹介することができた。また、ポスター展示もしていることから、本事業の活動をより広く発信するためにも、次年度は、文化祭でのポスター展示も計画に入れる。

・活動実施前に学生と、部落差別に関する学習を行った。学習前は、部落差別に関する知識をほとんど持ち合わせておらず、学習を通して、新たな知識として身に付けることができた。学習中は、知らないことを知ろうと意欲的に取り組み、疑問や課題を見出しながら、議論することで、見識を広げることができた。

・学生は何度もセンターへ足を運び、センターを利用している子どもの姿を見、そして子どもと関わることで、学校以外での子どもの居場所としてのセンターの必要性を感じている様子であった。しかし、子どもと関わるということに主眼が置かれていたこともあり、地域との繋がりという広い視点で本事業を捉えられていたかどうかは疑問が残る。指導教員がそのような視点からのアプローチが薄かったことも課題である。

・学生がセンターを訪問し、子どもと関わる機会が増えれば増えるほど、子どもと学生との距離感が縮まり、よりよい関係づくりに繋がると思われる。今年度は、訪問回数がそれほど多くはなかったため、多少の関係性は構築されたものの、よりよい関係づくりとまではいかなかったと思われる。次年度も、今年度参加した学生が継続して参加することで、今年度構築した関係を土台としてよりよい関係性を築けるのではないかと考える。そうすることが子どもの安心できる居場所づくりに貢献できるはずである。

・今年度5名の学生が参加したが、次年度は新たに何名かが加わり、今年度よりも多い人数の学生が本事業に参加し、協働した取り組みを推進していく予定である。

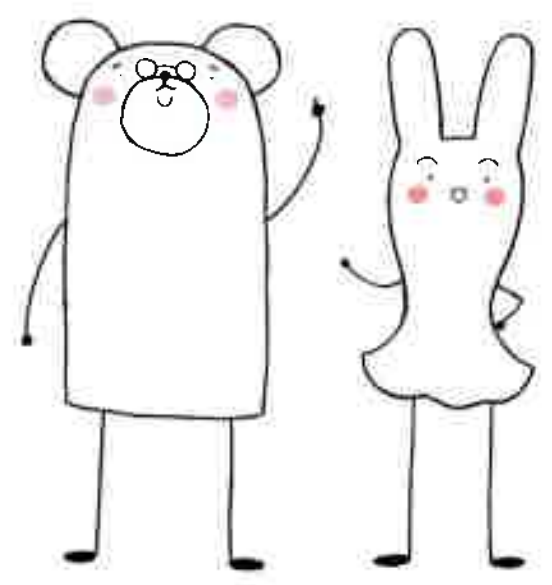
・協働団体からは、「普段子どもが行わない遊びを中心に学生が遊びの提供をしてくれたのが良かった。イベントの実施もそうであるが、日頃からセンターに顔を出して子どもと関わってもらえると尚良い」との評価を得た。

・協働団体は、「子どもは地域にある大学の学生と関われることをとても喜んでおり、楽しみにしていた。地域のイベント(夏祭り)への参加も検討して欲しい」とのことだったので、次年度検討したい。学生がセンターで子どもと関わることで、子どもの姿が変わる。それをセンターの活動の活性化へと繋げたい。

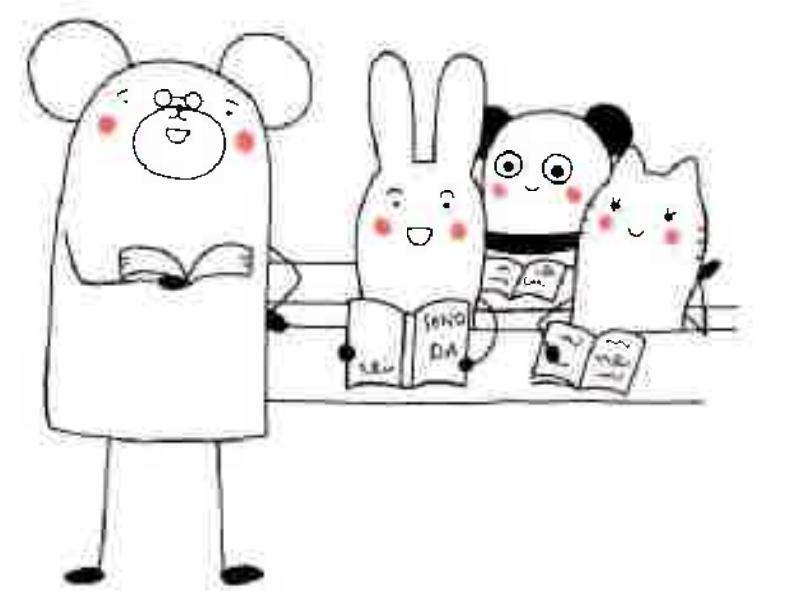
・センター職員から、学生はしっかりと準備をして、上手に子どもと関わることでできていたとの評価を得た。地域課題という視点を持ち、子どもと関わりを持ってもらえると尚良い。



※ 報告書の内容及び掲載写真は、市報、HP等の市の発行する媒体への掲載される場合がありますので、事前に学生等の同意を得た上で、提出をお願いします。



「運動や遊びを通じて行う 子どもの見守り・ささえあい活動」



園田学園女子大学 人間教育学部 児童教育学科 山崎ゼミ

目的

- 立花地区の子どもや子育てに関する課題解決に向けた取り組みを、社会福祉法人いきいきのびのびと協働しながら推進する。
- 立花地区の幼児や児童と同地区内に立地する園田学園女子大学に通う学生とが、**運動や遊びを通して交流することで、子どもの居場所づくりを活性化**させる。

方法

協働団体：社会福祉法人いきいきのびのび
活動場所：尼崎市地域総合センター上ノ島
活動日時：2023年7月27日（木）10:30～12:00
8月 7日（月） 9:00～12:00
2024年1月16日（火）16:00～17:00
活動内容：事前に打ち合わせをして決定

活動の様子①

夏を楽しもう
7月27日（木）、8月7日（月）

勉強タイム

水風船遊び



お土産のプレゼント



室内遊び

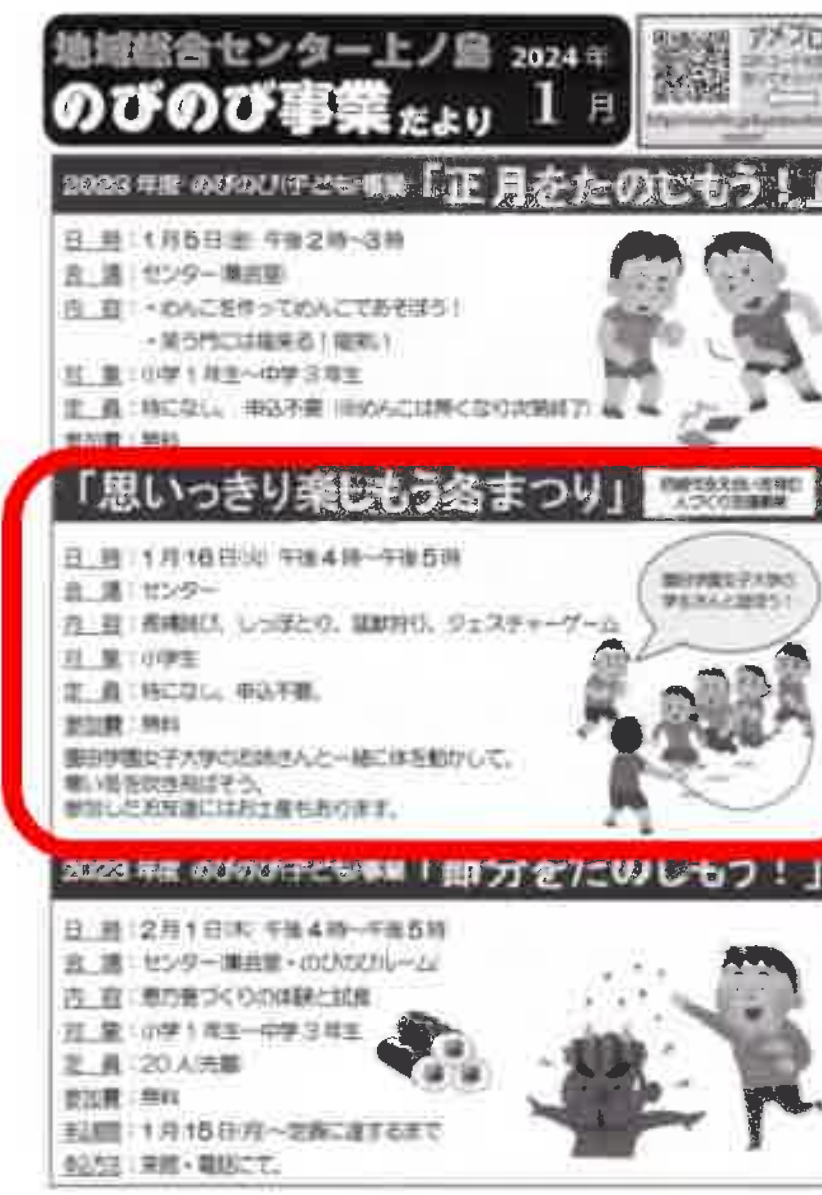


活動の様子②

思いっきり楽しもう冬まつり
1月16日（火）

案内のチラシ

1月9日に配布



長縄遊び

しっぽとり



参加した子どもの声

- 楽しかったので、また遊びたい。
- 朝まで遊びたい。
- しっぽとりがすごく楽しかった。
- しっぽとりで最後まで残れてよかった。
- 大学生が速すぎて疲れた。
- お姉さんと遊ぶのが夢だったから遊べてよかった。
- お姉ちゃんと遊べたのが嬉しかった。
- 違う遊びでも遊びたい。
- ジェスチャーゲームで分からないお題があった。

ジェスチャーゲーム

猛獣狩り

思いっきり楽しもう冬まつり



お土産のプレゼント

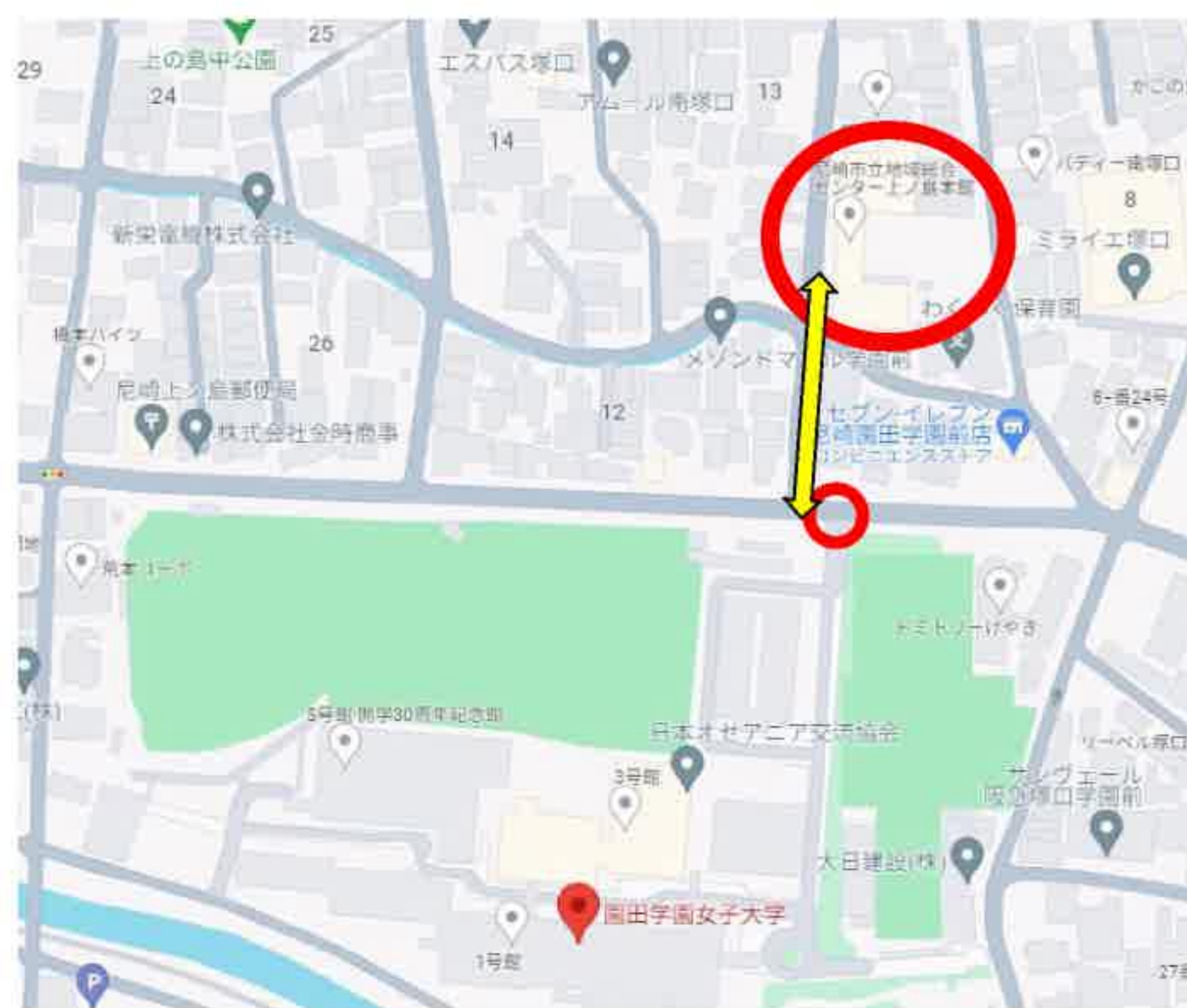


子どもからお礼の言葉



これらの活動をとおして

- 子どもたちの**遊び場が減っている中で、センターがあることはとても良い**と思った。
- 準備段階での子どもの動きの予想があまく、**もっとこうしておいた方が良かったと後になって気づくことがあった。**
- 子どもの心をいかにして掴むかが大切だ**と思った。
- こちらの警戒心が強いと、子どもはもっと警戒してしまう**ように感じたので、**こちらから積極的に声をかけたり、関わりを持とうとすることが大切だ**と思った。
- 年齢や性格の異なる多くの子どもと関わる良い機会となった。



尼崎市立地域総合センター上ノ島

約100m
徒歩1分

園田学園女子大学

